

事業計画書

① 団体名	一般社団法人 mimoza
② 事業名	ZOKU・ZOKU 食農教育を柱とする「いのちの広場」プロジェクト
② テーマ区分	番号：3
④ 補助回数	*同一事業における補助回数(年数)について、いずれかにチェック <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目
⑤ 現状及び課題	<p>不登校やひきこもりの方への支援は、本人のタイミングに左右されるため成果の可視化に時間を要するという課題がある。1年目は「場づくり」と「信頼関係の構築」を優先した結果、成果の見える化や発信が不十分であった。</p> <p>2年目は、行動変化・継続参加・役割の変化を指標として整理し、記録と発信を強化することで、成果の可視化と事業の効果検証を進める。</p>
⑥ 事業目的	<p>不登校やひきこもりの人、複雑な問題を抱えている人だけでなく、井笠地域で暮らす誰もが、幸せを感じられるために人と人を繋ぐ仕組みを作ることを目的とする。</p> <p>人間関係が希薄化している現代社会の様々な問題に、個人に寄り添いながら個別の伴走型の活動を継続的に実施する。</p> <p>「食」「農」「地域」「自然」との関わりを基本に、農産物が「いのち」を育み成長していく過程に関わることにより、日常の暮らしと地域の営みとの関係、いのちと健康の尊さを学び交流・実践の場とする。また、教育の学び・健康の学び・福祉の学び・交流の学びの4つの学びの視点を持ちながら取り組みを継続することで、人と人が繋がることのできる地域づくりとする。</p> <p>【4つの学びの視点】</p> <p>(1) 教育の学び ①食育と農業体験 ②自然環境とのふれあい ③地域活動への参加</p> <p>(2) 健康の学び ①地産地消 ②食の安全性 ③農業体験での健康維持</p> <p>(3) 福祉の学び ①青空サービス ②就労支援事業 ③心身やすらぎの場</p> <p>(4) 交流の学び ①共生社会の実感 ②地域活性化 ③ボランティア活動の育成</p>
⑦ 事業内容	<p>※備中県民局補助対象事業について、位置づけ(狙い)、概要、受益者(対象者)、実施地域、実施方法などを記載すること</p> <p>○「いのちの広場」</p> <p>概要：「いのち」をキーワードに食農教育を交流ツールとした、多様な住民の交流・学習・実践の場をつくる。</p> <p>対象者：不登校やひきこもりの人、複雑な問題を抱えている人</p>

従事者：活動に興味関心のある方、mimoza会員
実施場所及び実施方法：

①こもれびの杜

- ・「クッキング広場」（毎週月曜日）
あんこ・焼肉のたれなど自社製作開発
※就労支援事業としての推進
- ・「トライ広場」（毎週火曜日）SDGS活動
大地の再生&あぐりガーデン作り
浴用竹（入浴）製作開発
※就労支援事業としての推進
- ・「ないしょの広場」（月2回・予約制）

②こもれびベース（こもべ）

- ・「ボードゲームの広場」（毎月第1・3木曜日）
- ・「銀の寺子屋」（毎週月曜日）
- ・「A I 教室」（毎月第1金曜日）
- ・「色彩セラピア」（毎月第1・3月曜日）
- ・「銀のカフェ」（毎週木曜日）
- ・「うどん屋」（毎週土・日曜日・祝日）
- ・「畑のごはん」（毎月第3水曜日）

周知方法：チラシ配布・SNS活用

○「心の居場所相談会」 年3回

概要：相談会を開催して、個々のニーズを拾い上げる。「心の居場所相談会」等で受けた相談については、相談内容や本人の意向に応じて対応を行う。

まず、話を聞いてほしいというニーズに対しては、無理に課題解決を促すのではなく、安心して継続的に関われる場として「いのちの広場」等への参加を提案し、定期的・継続的な関わりにつなげる。一方で、生活上の困りごとや環境調整が必要と判断される場合には、本人の同意を得た上で、行政機関や福祉・教育等の関係機関と連携を図り、適切な支援につなげる。必要に応じて関係機関との情報共有や調整を行い、継続的な支援体制の構築を行う。

対象者：不登校やひきこもりの人、複雑な問題を抱えている人

従事者：活動に興味関心のある方、mimoza会員

実施場所：こもれびベース

実施方法：ひきこもり・不登校当事者や家族などの相談会

周知方法：チラシ配布・SNS活用

	<p>※前提として、全ての事業において、不登校やひきこもりの方の中には、直接会場に足を運ぶことが難しい人も多いため、段階的なアプローチを行う。まず、学校や支援機関、関係団体等と連携し、対象者や家族への情報提供や紹介を通じてつながりのきっかけをつくる。また、SNSやチラシ等においても支援色を抑えた発信を行い、心理的ハードルの低減を図る。居場所への参加が難しい場合には、相談会や個別対応、少人数での関わり等、本人の状況に応じた関係づくりから始め、無理のない形での関与を継続する。その上で、本人のタイミングや意向を尊重しながら、徐々に居場所への参加や活動への関わりにつなげていく。</p> <p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応 対面での実施のため、事業の規模縮小や中止を検討する。</p>
<p>⑧事業の条件及びアピールポイント</p>	<p>先進性、先駆性、独創性</p> <p>本事業における各取組は、それぞれ異なる役割を持ちながら、段階的な社会参加を支える一体的な仕組みとして位置づけている。例えば、「クッキング広場」や「ボードゲームの広場」は、他者と同じ空間で過ごすことや軽いコミュニケーションを通じて安心感を得る「参加の入口」としての役割を担う。</p> <p>「トライ広場」や「畑のごはん」等は、作業や役割を通じて自己有用感や達成感を育む「関わりの深化」の段階を担う。</p> <p>さらに、「ないしょの広場」や「心の居場所相談会」は、個別の悩みや困りごとに対応し、安心して自己開示できる「個別支援」の機能を担う。</p> <p>これらの段階を経ることで、参加者は無理のない形で他者や地域との関係性を築き、社会参加へとつながっていくことを想定している。</p> <p>本事業の各取組は、単なるイベントではなく、アウトリーチと直接支援を一体化した支援設計に基づいている。地域との接点を広げる機会としての機能と、参加者の安心感や行動変容を促す支援機能の双方を意図的に持たせることで、対象者の状況に応じた多層的な支援を実現する。</p> <p>1年目の事業では、「場づくり」と「信頼関係の構築」に重点を置き、継続的に関われる居場所の基盤整備を行った。その結果、参加者が安心して過ごせる環境づくりや、一定の継続参加につながる関係性の構築が図られた。</p> <p>一方で、参加者の変化や事業の成果について、記録・整理・発信が十分ではなく、成果の可視化や外部への共有に課題が残った。また、活動内容が多岐にわたる中で、それぞれの役割や目的の整理が十分ではなかった点も課題として認識している。</p> <p>これらを踏まえ、2年目は、参加者の行動変容や継続参加、役割の変化等を指標として整理し、記録・発信を強化する。また、各事業の</p>

目的や役割を明確化し、段階的な支援プロセスとして再整理することで、より計画的かつ効果的な運営へと改善を図る。

弊法人のスタッフには専門的知識を有した専門職が多数在籍している。社会福祉士や相談支援専門員等の専門職が連携のハブとなり、関係機関との調整を担う。対象児童や家族への支援を実効性のあるものとするため、行政、社会福祉協議会、民生委員、学校、福祉・医療等の関係機関と役割分担を明確にした連携体制を構築する。

具体的には、日常的な情報共有やケースに応じた個別調整を行い、必要に応じて関係機関とのケース会議を実施する。また、相談会や居場所活動を通じて把握したニーズについては、本人の同意を得た上で適切な支援機関へつなぎ、継続的な支援体制の中でフォローを行う。さらに、事業の進捗や成果については定期的に関係機関と共有し、支援の方向性の確認や役割の見直しを行うことで、単発的な連携にとどまらない、継続的かつ実効性のある支援ネットワークの構築を図る。

また、本事業は就労支援が必要な方の就労の土台づくりの一旦を担うことを想定している。就労支援は、定款第2条（5）（6）に基づく事業として位置づけており、「食」や「農」を活用した実践的な活動を通じて、就労に必要な基礎的能力（生活習慣、対人関係、役割遂行力等）の育成を図るものである。段階的な社会参加のプロセスの中で、無理のない形で就労へと接続させていく。

前年度は「場づくり」と「関係構築」に重点を置いたが、今年度はその基盤を踏まえ、「可視化」「仕組み化」「アプローチの多様化」の3点を中心に改善していく。特に、記録体制の整備、段階的支援プロセスの明確化、アウトリーチ機能の強化により、事業の実効性と再現性の向上を図っていく。

この活動は、参加の敷居が低いため、高齢者にも参加しやすく世代を超えた交流の場を生み出し、双方に社会とのつながりを感じ、活気や自信を取り戻す効果が期待できる。

多世代交流拠点こもればいベース（こもべ）を活用し、地域共生社会の実感、地域活性化、ボランティア活動の育成などを効果的に支援し、継続的な活動を可能にしていく。

備中地域への波及効果

備中地域内の他市町へ情報共有しながら新たな事業を展開することにより、不登校やひきこもりの人への理解を深め、地域力を高めていく活動に繋げる。また、プロジェクトの成果や活動内容をウェブサイトやSNS、専門誌などで積極的に発信し、他地域や団体への普及を図りノウハウの共有を推進する。

その他、団体の持つ専門性やノウハウ等

	<p>元大工・左官・自動車営業マン・郵便局員・教師・保育士・心理カウンセラー・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・社会福祉士・看護師・精神保健福祉士など現役も含め多様な知恵・特性・専門性を持っている人材が多数在籍しており、広範囲のケースに対応できる。</p>														
<p>⑨今年度の事業による直接の結果（アウトプット）及びその評価指標・評価方法</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>	<p>*いのちの広場</p> <table border="1" data-bbox="432 443 1401 837"> <thead> <tr> <th>開催回数</th> <th>内容</th> <th>参加予定人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">通年</td> <td>・クッキング広場 ・トライ広場 ・ボードゲームの広場 ・ないしょの広場</td> <td>各20人 各10人 各10人 各1人</td> </tr> <tr> <td>(新規プロジェクト) ・銀の寺子屋 ・A I 教室 ・色彩セラピア ・銀のカフェ ・うどん屋 ・畑のごはん</td> <td>各5人 各5人 各2人 各20人 各40人 各20人</td> </tr> </tbody> </table> <p>*「心の居場所」相談会</p> <table border="1" data-bbox="432 913 1401 1048"> <thead> <tr> <th>開催回数</th> <th>内容</th> <th>参加予定人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3回 (7月、10月、R9年1月)</td> <td>ひきこもりや不登校の人及び家族等の相談の場</td> <td>各5人</td> </tr> </tbody> </table>	開催回数	内容	参加予定人数	通年	・クッキング広場 ・トライ広場 ・ボードゲームの広場 ・ないしょの広場	各20人 各10人 各10人 各1人	(新規プロジェクト) ・銀の寺子屋 ・A I 教室 ・色彩セラピア ・銀のカフェ ・うどん屋 ・畑のごはん	各5人 各5人 各2人 各20人 各40人 各20人	開催回数	内容	参加予定人数	3回 (7月、10月、R9年1月)	ひきこもりや不登校の人及び家族等の相談の場	各5人
開催回数	内容	参加予定人数													
通年	・クッキング広場 ・トライ広場 ・ボードゲームの広場 ・ないしょの広場	各20人 各10人 各10人 各1人													
	(新規プロジェクト) ・銀の寺子屋 ・A I 教室 ・色彩セラピア ・銀のカフェ ・うどん屋 ・畑のごはん	各5人 各5人 各2人 各20人 各40人 各20人													
開催回数	内容	参加予定人数													
3回 (7月、10月、R9年1月)	ひきこもりや不登校の人及び家族等の相談の場	各5人													
<p>⑩今年度に期待される成果・効果（短期アウトカム）及びその評価指標・評価方法</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記</p>	<p>事業参加者</p> <p>不登校やひきこもりの人、複雑な問題を抱えている人が、社会との接点を持つことにより、意識の変容につながる。</p> <table border="1" data-bbox="432 1294 1449 1458"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者の声</td> <td>参加者への聞き取り、アンケート</td> <td>参加者の意識が相談会やいのちの広場への参加でどのように変化したのかを探る。</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業実施団体</p> <p>地域共生社会の実現に向けて支援力を向上するとともに、行政機関、支援機関、企業との連携を促進することができる。</p> <p>備中地域</p> <p>地域共生社会の実現に向けて支援力を向上するとともに、行政機関、支援機関、企業との連携を促進することができる。</p>	評価指標	評価方法	目標	参加者の声	参加者への聞き取り、アンケート	参加者の意識が相談会やいのちの広場への参加でどのように変化したのかを探る。								
評価指標	評価方法	目標													
参加者の声	参加者への聞き取り、アンケート	参加者の意識が相談会やいのちの広場への参加でどのように変化したのかを探る。													
<p>⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトカム）</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>	<p>事業参加者</p> <p>対象者が社会と接点をもつ機会を得て、次のステップへ向けて考えるきっかけができる。</p> <p>事業実施団体</p> <p>井笠圏域で活動する団体、支援機関、行政と支援ネットワークの構築へのきっかけができる。</p> <p>備中地域</p> <p>井笠圏域における理解者を増やすとともに、社会資源の拡充につながる。</p>														

<p>⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定（資金確保の見通し等）</p>	<p>様々な活動を進める中で、井笠圏域の企業との交流により理解者を増やすとともに、パートナー企業を募り、共に活動を推進していけるような仕組みづくりを構築する。また、「心の居場所」としての場を井笠圏域に根付かせる。</p>
---	--

<記入上の注意事項>

- 1 各項目は、簡潔かつ明瞭に記入してください。
- 2 「④補助回数」欄の2回目は、前年度に採択された事業を今年度も継続して実施する場合に選択できます。
- 3 「⑤現状及び課題」欄は、事業実施の要因となる地域課題や問題点、社会的背景等について記入してください。なお、根拠となる統計データや当事者の声などがあれば、それも示してください。
- 4 「⑥事業目的」欄は、事業を通じて実現したいこと、目指す将来的な姿（社会、経済、生活、環境等）について、「⑤現状及び課題」、受益者（対象者）等を踏まえて記入してください。
- 5 「⑦事業内容」欄は、課題解決や「⑥事業目的」における位置づけ（狙い）とともに、概要、受益者（対象者）、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに具体的に記入してください。また、天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応（代替案の検討、事業縮小、事業中止等）についても併せて記入してください。なお、事業が複数の場合は、それぞれの事業ごとに内容を記入してください。
- 6 「⑧事業の条件及びアピールポイント」欄は、事業条件としている広域性又は先進性、先駆性、団体の持つ専門性やノウハウ等のアピールポイントについて具体的に記入してください。なお、先進性、先駆性は、他地域での先進例や成功例等もあれば、それも参考として記入してください。
- 7 「⑨今年度の事業による直接の結果（アウトプット）及びその評価指標・評価方法」欄は今年度の活動計画及びその評価指標・評価方法を記入してください。「⑩今年度に期待される成果・効果（短期アウトカム）及びその評価指標・評価方法」欄は事業実施により得られる今年度の利益や変化及びその評価指標・評価方法について記入し、「⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトカム）」欄は、事業を継続して行うことで、将来的に得られる利益や変化について記入してください。なお、事業が複数の場合は、⑨、⑩、⑪は事業ごとに分けて記入してください。
- 8 「⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定（資金確保の見通し等）」欄は、「⑥事業目的」や「⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトカム）」を踏まえ、翌年度以降に実施する予定の事業内容、組織体制、財源確保の手法、事業継続の工夫等について記入してください。
- 9 記入箇所が不足する場合は、必要に応じて行挿入等を行ってください。

日 程 計 画 表

年月	事業内容	場所	規模等		
通年	○「いのちの広場」	mimoza こもれびの杜	各 20 名		
	・「クッキング広場」 (毎週月曜日) あんこ・焼肉のたれなど自社製作開発 就労支援事業としての推進				
	・「トライ広場」 (毎週火曜日) SDGS活動 大地の再生&あぐりガーデン作り 浴用竹 (入浴) 製作開発 就労支援事業としての推進				
	・「ないしょの広場」 (月 2 回・予約制)	〃	各 2 名		
	○「いのちの広場」 新規プロジェクト	こもれびベース	各 5 名		
	・「ボードゲームの広場」 (毎月第 1・3 木曜日)				
	・「銀の寺子屋」 (毎週月曜日)			〃	各 5 名
	・「A I 教室」 (毎月第 1 金曜日)			〃	各 5 名
	・「色彩セラピア」 (毎月第 1・3 月曜日)			〃	各 2 名
	・「銀のカフェ」 (毎週木曜日)			〃	各 20 名
・「うどん屋」 (毎週土・日曜日・祝日)	〃			各 40 名	
・「畑のごはん」 (毎月第 3 水曜日)	〃	各 20 名			
7 月 10 月 1 月	○「心の居場所」相談会 (予約制) 年 3 回 不登校やひきこもりの人及び家族等の相談 の場	mimoza こもれびの杜	各 5 名		

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください (例：〇〇市文化センター、△△市内)。
不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」欄は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。